

韓統連大阪通信紙

自主

チャジュ

405号

2024年12月号

자주

発行：韓統連大阪本部 自主編集委員会

〒544-0034

大阪市生野区桃谷3-13-6

TEL06-6711-6377 FAX06-6711-6378

毎月1回発行 購読料年間4000円

郵便振替 00940-7-314392

自主編集委員会

## 今、大韓民国の「民主国家」が問われている 各界各層に広がる尹錫悦政権退陣要求の声

今年もあとわずかとなり、年の瀬の声が聞こえるようになった。振り返ると今年是我が祖国の歴史的な大きな転換点になった年だと言えるだろう。

まず何よりも尹錫悦政権登場以降、一層顕著になった韓米両軍による軍事演習だ。今年だけでも実に年間の3分の2以上の期間、継続して軍事演習が行われているという、平和時においては考えられない異常な事態だ。さらに問題なのは米軍を中心に韓国軍に加えて日本の自衛隊が参加していることだ。韓国と日本とは歴史的な問題も存在するため軍事条約は結ばれていない。にも関わらず、韓国と日本の戦艦や戦闘機がともに演習するという恐ろしい事態が知らないところで進められており、まさに韓米日の軍事一体化が大きく進展された年だ。

### ●窮地に立つ尹錫悦政権

就任後、任期5年の折り返し点に立った尹錫悦(ユン・ソクニョル)大統領だが、ここに来て最大のピンチに立たされている。最近の支持率はついに10%台(韓国ギャラップ11月29日)にまで落ち込んだ。

政権のほとんどの主要な役職に身内ともいえる検察出身者を登用し、さらには夫人の金建希(キム・ゴン)氏が複数の役職に口添えし、影響を与えたとの疑惑が発覚した。政治の役職にない者が、自らの立ち位置を利用して政治に積極関与することを「国政ろう断」というのだが、まさにこれに該当する。また金建希夫人は株価を操作して莫大な利益を得たり、多額の金品を受領したとの疑惑が発覚したため、国会で真相を究明するための

「特別検察官」設置の法律を通過させたが、尹大統領は再議要求件(拒否権)を行使して無効化してしまっただけで、まさに「独裁政権」と言われてしかりである。

### ●高まる尹錫悦政権退陣要求闘争

そんな中、ついに国民の怒りは爆発の兆しを見せている。「尹錫悦退陣国民投票推進本部」には民主労総や各産業別労働組合、全農、宗教界など

も呼応する形で国民投票に突入、瞬く間に30万人に達した。さらには全国78大学の教授3200名以上が連名で退陣要求声明を発表、国会では多数の野党議員が尹錫悦大統領の「罷免・退陣」を要求している。また、共に民主党が主催した「金建希・尹錫悦国政ろう断糾弾 特検要求国民行動の日」汎国民大会に



▲街頭で尹錫悦退陣を訴える青年たち

約30万人が結集した。

昨年の6月に出帆した「尹錫悦政権退陣運動本部」には現在、全国67の地域・団体が加盟し、退陣に向けた大きなうねりを作り出している。まさに各界各層の国民たちが退陣要求闘争に参加する中、尹錫悦退陣が現実味を帯びてきている。

### ●「国家保安法」による弾圧を糾弾しよう!

韓国のネットメディア「自主時報」の代表と記者が韓統連の記事を転載したことで、国家保安法容疑で自宅捜索を受けた。韓国進歩連帯もまた国家保安法容疑で弾圧を受けている。尹錫悦政権による「国家保安法」弾圧の嵐が吹き荒れる予兆と見るべきだろう。

来年はさらにすべての勢力に連帯して尹錫悦政権退陣闘争に総力をもってまい進しよう。(啓)

## 韓国民衆とともに

## 尹錫悦政権退陣の声をあげよう！

## 韓統連全国代表者会議

韓国内で尹錫悦政権退陣の声が高まる中、「戦争挑発・介入を中止せよ！尹錫悦退陣 韓統連全国代表者会議」が11月10日（日）、東別院会館（名古屋市中区）で開かれた。

代表者会議では、宋世一（ソ・セイル）韓統連委員長が主催者挨拶を通じ「昨日（11/9）開催された、第1次尹錫悦政権退陣総決起では10万人が集まり、尹政権退陣を要求した。野党・市民社会団体などでも退陣運動が高まっている。窮地に陥った尹政権は常投的手段である公安弾圧で退陣運動の核心部隊に攻撃を加え、朝鮮のロシア“派兵”を既成事実化しながら、ウクライナに段階的に殺傷兵器を支援すると公言している」と指摘、「尹政権のこのような戦争挑発・介入を私たちは断固として阻止しなければならない」と訴えた。



▲主催者挨拶をする宋世一委員長

続いて、韓成祐（ハン・ソウ）韓青中央本部委員長、高弘（コ・ホン）韓統連兵庫本部事務局長が意見表明を行った後、趙基峰（チョ・ギボン）韓統連副委員長が決議文を朗読し、▲特検法で尹錫悦、金建希疑惑を明らかにせよ！▲尹錫悦は戦争挑発と介入を中止せよ！▲退陣闘争に連帯して退陣を実現しよう！の3つの決議を採択した。

そして、金昌五（キム・チャンオ）韓統連副委員長が閉会辞を通じ「私たちは尹錫悦が退陣するまで、最後まで闘っていくと同時に、退陣後の韓国社会の未来を見通していかなければならない。尹政権退陣後、私たちが最初にしなければならない課題は、米国の圧力に屈服しない自主的民主政府を樹立す

ることだ。団結した力で尹政権を退陣させ、平和と繁栄の時代を作ろう」と語った。

代表者会議では、韓国の「尹錫悦政権退陣運動本部」が展開している国民投票に連帯して、会場に退陣の賛否を投票するアンケートパネルを展示して退陣要求意見を集めた。

## 耳塚とウトロを訪問し、歴史を学ぶ

## 韓統連大阪本部「ウトロ歴史探訪」

韓統連大阪本部の初企画として「バスで行く～秋の京都～ウトロ歴史探訪」が11月17日（日）に行われ、大阪本部会員などが参加した。

大阪市内で集合した参加者は、バスに乗車して京都に向け出発。京都へ向かう車内では孫啓榮（ソン・ゲヨン）大阪本部副代表委員から「ウトロに関するクイズ」が行われ、フィールドワークに向けた雰囲気盛り上げた。



▲パネルなどを通じてウトロの歴史を学ぶ

その後、最初の目的地である京都市東山区にある耳塚を訪問、金昌範（キム・チャンボム）大阪本部代表委員から耳塚に関する解説を受けた後、隣接している「カササギの家」で昼食をとりながら、参加者一人一人から今回のフィールドワークに参加した動機などが語られた。

その後、宇治市にあるウトロ平和祈念館を訪問。平和祈念館では、館内外に設置している展示物をはじめ2021年8月に起きた放火事件現場を見学し、案内員から▲戦時中、朝鮮人労働者がウトロ地域に居住した経緯、▲戦後は厳しい差別を受けながらも、生活拠点を守るために様々な運動を行ってきたことなどの解説を受け、ウトロ地区の歴史を学んだ。

## 戦争挑発・介入を中止しろ！尹錫悦退陣 韓統連全国代表者会議決議文

尹錫悦大統領と尹政権に対する国民の怒りは、いまや天を衝く勢いであり、爆発寸前と言える。

尹政権は4月の総選挙で国民から厳しい審判を受けたにもかかわらず、尹大統領は無能と無責任、独断と専横、民生の破たん、民主主義の否定、戦争挑発・介入と平和の破壊、対米従属・対日屈辱外交、対北対決と、その資質と姿勢、政策に何の反省も変化もないまま、憲政秩序を破壊し国政をろう断するという許しがたい暴政・悪政・失政を平然と継続している。

尹大統領と金建希夫人は「疑惑の宝庫」だ。尹大統領による海兵隊員殉職事件への捜査外圧疑惑、金建希夫人のドイツモーターズ株価操作疑惑、高級バッグ授受疑惑に加えて、国会議員補欠選挙の候補者公認過程への介入疑惑まで明らかになった。だが、二人は黙秘と否認を続け、尹大統領は真相解明のための特別検察法案を拒否権でことごとく葬り去り、検察は二人を徹底擁護している。

当然のごとく、世論調査では全地域、全世代で、さらには保守層も含めて支持を失い、支持率はついに10%台に落ち込み、政権運営に赤信号が点滅している。

こうした中、尹錫悦退陣運動本部は、全国で10万人が結集した尹政権退陣時局大会(9月27、28日)を皮切りに、10月8日からは退陣の賛否を問う国民投票も全国的に展開し、国民の退陣意思を集めながら、11月9日に退陣総決起を開催。ソウルに結集した10万人の参加者は尹政権に退陣要求を突きつけた。総決起は継続して20日、12月7日にも実施される。

また、院内では弾劾を党方針として決定した進歩党・祖国革新党と野党議員が「尹政権弾劾準備議員連帯」を構成し、弾劾準備に拍車をかけている。

第一野党「共に民主党」が11月2日にソウル駅一帯で開催した「金建希-尹錫悦 国政ろう断糾弾 特検要求 国民行動の日」汎国民大会には

30万人が結集し、尹政権出帆後では最大規模の反尹行動となった。同党は「金建希特検法通過などのための一千万人署名運動」を通じた汎国民運動を開始した。

院内外で反尹闘争がこれまでにないほどに高揚している。こうした闘争が一つに束ねられながら反尹汎国民戦線が構築され、国民的退陣闘争の全国的な高揚が、尹政権を追い詰め退陣を実現する展望を必ず切り開くだろう。

一方、尹政権は政権危機を脱出するために、常套手段の公安弾圧に乗り出した。特に、弾劾キャンドル集会を開催するキャンドル行動と、退陣運動の中心である韓国進歩連帯を標的にし、弾劾・退陣運動を封じようと躍起になっている。

弾劾・退陣要求が噴出する中で、尹大統領は朝鮮のロシア「派兵」を既成事実化しながら、段階に応じて殺傷兵器をウクライナに供給するとし、NATOの先兵と化して戦争を挑発し介入しようとしている。だが、韓国政府が関与すれば、戦争拡大を招き軍事緊張を煽るだけなのは明らかである。

民意を踏みにじり国政をろう断し、批判勢力を弾圧し、さらには戦争を挑発し介入しようとする尹大統領に、国民が期待するものは退陣以外に何もない。

朴槿恵政権を弾劾し退陣に追い込んだキャンドルの炎はいままた燃え上がり始めた。国民は再び立ち上がり尹大統領に鉄槌を下そうと決意している。わたしたちも海外の地から退陣闘争に固く連帯し必ず退陣を実現しよう。以下、決議する。

1. 特検法で尹錫悦・金建希疑惑を明らかにしろ！
1. 尹錫悦は戦争を挑発し介入するな！
1. 退陣闘争に連帯し退陣を実現しよう！

2024年11月10日  
戦争挑発・介入を中止しろ！

尹錫悦退陣 韓統連全国代表者会議参加者一同



▲プラカードアピールで尹錫悦政権退陣を訴える

## 【投稿】

## 韓統連と「反国家団体」

金 恨(キム・ハン)

昨年、韓国で韓統連の本が出版された。題名は「野蛮の時間」。副題は「反国家団体の犠牲になった韓統連の50年」。著者はハンギョレ新聞で長く論説委員を務め、2022年に定年退職されたキム・ジョンチョル氏だ。

この本を読めば、いかに韓統連の「反国家団体」がデタラメな裁判で確定されたのがあらためてよく解る。関わった検事や裁判官の実名も明記され、彼らの他の弾圧事件も紹介されており、軍事独裁政権の理解にも大いに役立つだろう。また金大中氏との韓民統結成にいたる詳細な経過や、当時の民団内の状況も詳しく触れており、在日同胞の運動史としても貴重な事実が記載されている。さらに故裴東湖(ペ・ドンホ)先生と国内民主人士が、「ジョージ」と「マリア」という仮名を使っての手紙のやりとりなどの記述もあり、小説的な面白さも備えている。

膨大な資料の分析に加えて、多くの関連人物との直接インタビューとの構成が、より説得力あるものになっており、この一冊に費やした著者のその労力は驚嘆に値する。韓統連の50年を軸にしながらも、その枠を超えて、その背景にある本国、在日、民団の歴史を詳細に記述した大作である。

著者は、韓統連が軍事独裁政権時代の大法院(最高裁)で確定された「反国家団体」規定が、今なお解除されていないことを「韓統連事件」と称し、序文で以下のように述べている。

「韓統連事件は、独裁政権時代の『過去史』ではなく、『今、ここ』の問題だ。日本にいる彼らのことではなく、韓国にいる我々の課題だ。反独裁民主化運動をした彼らに、何の根拠もなく反国家団体という赤いレッテルを貼ったのは独裁者の韓国政府であったが、今まで彼らをいろいろな差別に放置してきたのは民主化された韓国社会だ。この本が彼らではなく、私たちに振り返る契機となれば幸いだ」。

実に有難い言葉だ。韓統連のメンバーはもちろん、今まで韓統連を支援してきた人たちがこの言葉を聴けば、どれほど励まされることだろう。

聖公会大学の韓洪九(ハ・ホング)教授も推薦文で以下のように述べている。

「大韓民国の国民は、実は韓統連に大きな負債を抱えている。しかし負債を抱えているという事実も知らない。それどころか、韓統連自体を知らない。だからそのメンバー達がどのような苦痛を受けてきて、現在も受けているのかを知らない。金大中大統領が日本から拉致された1973年に

結成されて今年で満50歳になる韓統連は、国内外を問わず最も古い民主化運動団体だ。しかし、ずっとアカという烙印を押されたままで、旅券も正常に発給されない境遇だ。日本で差別を受け、韓国から不穏視されている韓統連に対して、早くから関心を持っていても大きな仕事ができず、いつも申し訳なく思っていた

が、キム・ジョンチョル記者がこの本を書いた。まさに私が書きたかった本、私が書かなければならない本だ」。

異常なことや、不当なことが長く続き過ぎると、それが既成事実化してしまい、特に問題だと意識しなくなってしまうことがある。韓統連の「反国家団体」問題もそうだろう。軍事独裁政権時代に押された烙印が、半世紀近く経った今も消えていないのは、あらためておかしい話である。韓統連の「反国家団体」規定は冤罪であり、重要な人権侵害だ。しかし、不思議なことに在日の人権団体も、この問題に関してはあまり興味をもてこなかった。「野蛮の時間」は来年の春に日本語版が発刊される予定だ。この本が普及すれば、韓統連の「反国家団体」解除の世論が大きく喚起され、国家保安法撤廃の大きな布石になるだろう。



▲キム・ジョンチョル氏の著書「野蛮の時間」

## 【コラム】

## 冬の粥

早や師走なれば、冬至も間近。今年の冬至は12月21日になる。町の銭湯では柚子湯が催されるだろう。残念ながら銭湯そのものが減りつつある昨今、あまり人々に意識されない風習となったが。

韓国の冬至では、家族が集まって小豆粥(パッチュ)を食べる行事がある。朝鮮王朝末期の歳時記である『東国歳時記』にはこの様に記されている。

「冬至の日、亜歳(小正月)と称す。赤豆粥を煮て、もち米の粉で鳥卵状の団子を作り、その中に投じて心とし、蜜を和える。以て時食(季節行事の食事)として供える。豆汁を門板にそそぎ、以て不祥を除ける」

小豆粥を作り、セアルシム(鳥卵心)と呼ばれるもち米の団子を加える。これを家の各所に供えて厄を払う。古くからの伝統行事である。

この小豆粥の行事について、高麗の宰相だった李齊賢も「東人(高麗人)は冬至に必ず豆粥を煮る」と記している。高麗時代にはすでに広く普及していた行事であることが伺える。

そもそもこの小豆粥は古代中国から伝来したものだ。6世紀頃、中国の長江中流域の風俗を記した『荆楚歳時記』にこう紹介されている。

「共工氏(神話上の水神)に、不才の子あり。冬至に死して、疫鬼となる。(この疫鬼は)赤小豆を畏る。ゆえに冬至の日、赤豆の粥を作りこれを禳う」。

冬の伝染病の厄を払うため、冬至に小豆粥を作ると書かれている。赤色や紅色は東アジアでは広く、めでたい色、厄払いの色として考えられており、祝い事で炊かれる赤飯などもその意味合いがある。赤色の小豆粥で厄を払うのも、そうした意味がある。

しかしながら、時を経て中国では冬至粥の風習

が廃れていった。17世紀の朝鮮の百科全書『芝峰類説』では「私の見るところ中国人は、冬至に赤豆粥を作らない」と書かれている。

実際、宋代の都である開封の様子を記した『東京夢華録』では、冬至の日に小豆粥を食べるという記述が一切ない。一方で冬に食べる「臘八粥」というものが紹介されている。「臘八」とは陰暦12月(臘月)8日のことで、釈迦の成道(悟りを開いた)の日とされる。寺院では臘八会を開き臘八粥を門徒にふるまった。この臘八粥の伝統は今も伝わっており、米や雑穀、小豆・ナツメ・栗などを煮て甘く仕立てて食べる。冬至粥の行事がいつしかこちらの臘八粥に代わったのだろうか。

ちなみに、日本では冬に小豆粥を食べる行事が一部の地域に残っている。冬至粥や、1月15日に食べる望粥(もちがゆ)が挙げられる。

とはいえ、日本において冬に粥を食べる行事といえば、やはり1月7日の七草粥だろう。「セリ・ナズナ・ゴギョウ・ハコベラ・ホトケノザ・スズナ・スズシロ、春の七草」と覚えている方は多いはずだ。

実はこの七草粥も中国の風習が影響しているらしい。『荆楚歳時記』に「正月七日は人日なれば、七種の菜を以て羹(熱い吸い物)を為す」とある。これが時代を経て春の若菜摘み(山菜採り)の風習と組み合わせ、今に伝わる七草粥の行事になったと聞く。

こうしてみると、粥の行事は中国に由来するものが多い。現代においても朝粥文化をはじめ、その粥へのこだわりは一目置かざるを得ない。

「水見えて米見えざるは粥にあらず。米見えて水見えざるは粥にあらず。必ず水と米をして融けわたらしめ、柔くなめらかなること一の如くせよ。しかる後にこれを粥と謂う(『随園食単』飯粥単)」。

(好)



▲(上)韓国の小豆粥  
(中)中国の臘八粥  
(下)日本の七草粥

## 【翻訳資料】

## 各界人士など「ウクライナに武器支援をするな！」

11月26日、各界人士と市民社会団体代表者が尹錫悦政権に対して「ウクライナに武器支援をするな！」と要求した。

この日、ソウル龍山大統領室前で自主統一平和連帯イ・ホンジョン常任代表議長、民主社会のための弁護士の集い米軍問題研究委員会キム・ジョンギ弁護士、進歩大学生ネットのイム・ジヘ ソウル仁川支部執行委員長などが参加して記者会見が開かれた。

キム・ジョンギ弁護士は「現在交戦中のウクライナに武器を輸出するのは戦略物資輸出入告示違反であり、軍事援助の形で武器をウク

ライナに送ることは、韓国が2017年に加入した武器取引条約に違反する」と指摘した。

参加者は「各界共同宣言」を通じて「砲弾などの攻撃武器を直接支援し、派兵など軍人派遣に進むならば、これはロシア・ウクライナ戦争に公式的かつ直接的に介入することであり、このことはロシアに対する共同交戦国となり、経済と安全保

障の両方で深刻な結果を呼び起こすことは火を見るように明らかだ」と指摘した。

さらに「最近ロシアは、米国・欧州の武器支援によるロシア本土攻撃に対する核兵器を含む対応を警告した。核戦争を含む第3次大戦の危険性が



▲ウクライナへの武器支援反対を訴える各界代表

人類の前に迫ってきた今、国際社会が力を注ぐべきことはウクライナ戦争の終息であり、武器支援と軍事介入ではない」と強調し、▲ウクライナに対する一切の武器支援及び国軍派遣反対、▲武器支援議論のためのウクライナ特使団訪韓拒否、▲主権・平和・民生を脅かすウクライナ軍事支援反対

を訴えた。

この日の「各界共同宣言」には、自主統一平和連帯をはじめ241団体と各界人士1325人が署名し、26日、ソウル龍山をはじめ慶南・済州・京畿・全南・など全国11ヶ所で同時多発的に発表された（韓国インターネット新聞“統一ニュース”11月26日付）。

## ◆◆行事案内◆◆

## 第3回韓統連セミナー2024

## 情勢講演「激動する韓国、そして朝鮮半島の今日と明日」

日時：12月15日（日）午後1時30分 受付／午後2時 開会

場所：いくのパーク多目的室（JR鶴橋駅・桃谷駅から徒歩20分）生野区桃谷5-5-37

報告者：金昌五（キム・チャウ）韓統連中央本部副委員長

参加費：800円（青年学生・障害者500円）

※終了後、午後5時から「2024韓統連大阪本部送年会」を同会場にて開催します。

主な内容は「映像で見る2024年」／スピーチ・交流などです。

参加費は3000円（お酒を飲まない方は2500円）。

問合せ：090-3822-5723（崔）

## 編集後記

お知らせです。2014年6月号から計10回シリーズで掲載しました「ケロヨンのちょこっと韓国語」が、2025年新年号から新たに始まります。どんな韓国語の豆意識が紹介されるのでしょうか。お楽しみに！

（ソン）